

みんなにやさしいまちに
～モデル地区推進部会活動報告書～
〈平成23年度〉



平成24年3月

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会
モデル地区推進部会

<目 次>

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業	1
II. 下落合小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	
4年生児童の感想	7
平成23年10月26日 体験学習時 参加者アンケート	18
平成23年11月15日 まち歩き学習時 参加者アンケート	20
平成23年12月5日 学習発表会 参加者アンケート	24
平成23年11月15日 まち歩き学習時 部会長あいさつ	26

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. 対象地区

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区：高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区：仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区：大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区：桜木小（平成21年度）

なお、平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応することとしました。

- さいたま新都心周辺：下落合小（平成23年度）

3. 活動イメージ

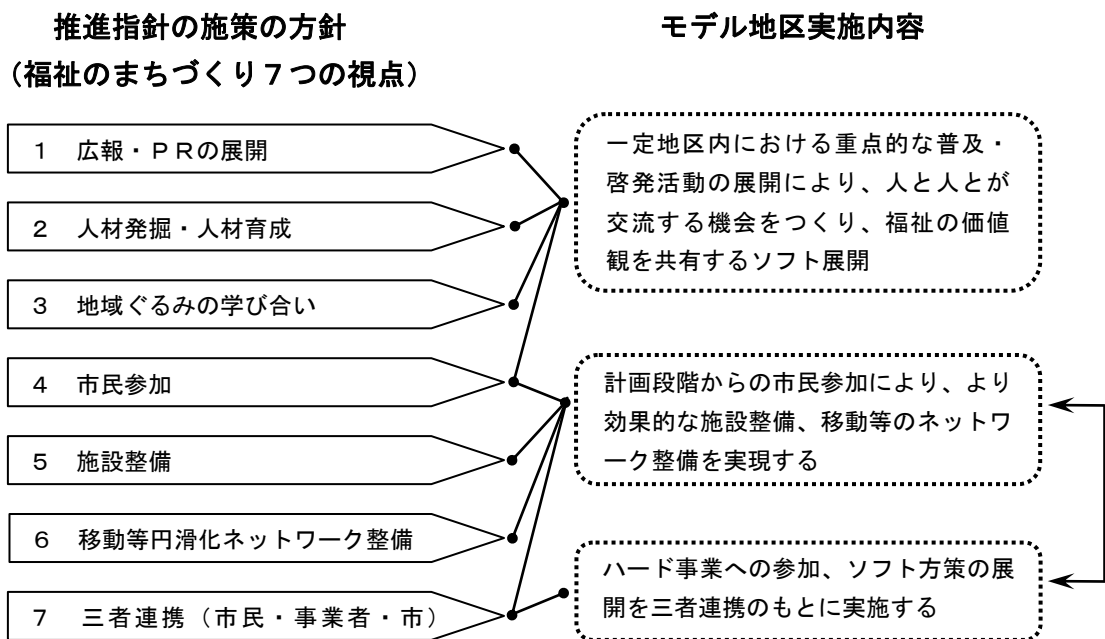
- 「広報・PR」、「人材の育成」、「学び合い」、「施設整備への市民参加」などをキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、バリアフリー体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。
なお、小学校でのバリアフリー体験学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

4. 組織

- 「モデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、自治会関係、教育関係、行政職員によって組織され、モデル地区事業を推進しています。

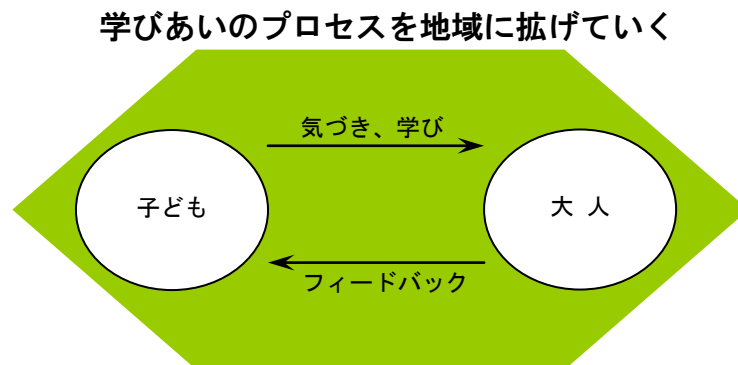
5 モデル地区の事業展開

- 地区内の学校と協力した福祉教育の展開・調査やマップづくり・イベントと連携したPR・施設整備への意見といった活動を、次の「福祉のまちづくり7つの視点」に基づいて進めています。



6 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。



Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、モデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりとともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす父兄や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や高齢者、妊産婦経験者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

下落合小学校での取組について

下落合小学校では、4年生児童（3クラス：104名）を対象に実施しました。

(1) 取組の概要

【参加者】

モデル地区推進部会の他、肢体・視覚・聴覚・知的の各障害者団体から選出された方、ボランティアグループ、保護者、市関係課職員、社会福祉協議会、社会福祉事業団が参加しました。

【みんなにやさしいまちに】

障害のある方について知り、ともに理解しあい、助け合って生きていくことの大切さに気づき、自分の生き方や生活にいかしていく。

過程	ねらい	子ども達の活動
ふれる	障害のある方やバリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて知り、これからの学習意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none">・ 公共施設を見学し、バリアフリーについて知り、車いす、アイマスク、白杖などの歩行体験を行う。・ ユニバーサルデザインについて知る。・ 書籍、インターネット等で情報を収集する。
つかむ	「ふれる」場での活動を通じて、自分なりの課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none">・ イメージマップを作成する。・ 自分なりの思いや願い、イメージマップをもとに、具体的な活動につながる課題を考える。・ 課題に合わせてグループを作り、活動計画を立てる。



追 求 す る	自分の知りたいことを追求する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点で身近な地域の見学や歩行体験をして、過大を追及する。 ・中間報告会で情報交換を行い、課題や活動内容の見直しや修正をする。
ま と め	自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで追及したことをもとに、自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案しまとめる。 ・発表会を行い、自分達が学習してきたことや住みやすいまちづくりのための提案を伝え合う。 ・自分の生活に生かす。

(2) 擬似体験

日 程	内 容	場 所
10/20 10/21	☆バリアフリー施設見学 ・バリアフリーやユニバーサルデザインについて知る ☆歩行体験 ・車いす、アイマスク、白杖などを使用し、歩行体験を行う	さいたま新都市 けやき広場
10/26	☆妊婦擬似体験 ☆障害のある方々とのふれあい ・ゲームを通しながら、知的な障害があるということとは、どんなことなのかを捉えさせる ・妊婦さんや知的障害のある方の思いや願いを知ることで、「やさしいまち」に対する自分なりの気付きや思いやりを持つことが出来るようにする ・障害のある方々とのふれあいを通して、お互いを正しく理解し、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを気付く ・意欲的に体験することで、自分なりの課題を見つけることができる	小学校体育館



(3) まち歩き

日 程	内 容
11 / 15	<p>視覚・聴覚・肢体・知的の障害当事者の方々や高齢者、保護者、ボランティアグループの方々、モデル地区部会委員、市関係課職員、社会福祉協議会職員、社会福祉事業団職員と共に、下落合小学校周辺のまち歩きを行った。</p> <p>◎まち歩きコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ①与野東中学校方面 ②北与野駅方面 ③合同庁舎方面 ④学校周辺   <p>3クラスを9グループに分けて、障害当事者の方々と約50分間をかけて歩いた。その中で、まちを歩く上での不便さを質問したり、まちの中の便利さ・不便さを自ら体験する。</p>

(4) 発表会

日 程	内 容	場 所
12 / 5	<p>〈まとめる〉</p> <p>小学校の学校公開日を利用し、活動に参加した関係者のほか、保護者が参観するなかで発表会を開催した。</p> <p>☆グループごとにブースを設け、全グループが一斉に10～15分程度の発表を行う。</p> <p>視覚障害について 6グループ</p> <p>聴覚障害について 3グループ</p>	小学校体育館

	<p>肢体不自由について 高齡・知的障害について</p> 	<p>3グループ 3グループ</p> 	
--	--	---	--



参加者の声 ～みんなにやさしいまちに～

○4年生児童の感想

I 【問】10月26日の体験学習で感じたことを聞かせてください

- 1 障害者でも僕達と同じように暮らしていることが、すごいと感じました。困った時は、声を掛けてあげたいと思いました。
- 2 初対面でドキドキしましたが、生き生きとしている障害者の話がとても心に響きました。
- 3 初めて触れ合い、インタビューなどをして、障害の方から話を聞いて知らなかったことが分かりました。例えば、点字ブロックの大切さ。
- 4 障害者の方も健康な人と同じように暮らしていることが分かりました。
- 5 障害者に声を掛けてあげることを学びました。いきいきと生きていることが分かりました。
- 6 「進んで声を掛けてくれると助かる」と言われたことが、頭に残っています。
- 7 みんな、自分達と同じということ。みんな、大変だけれどがんばっていること。
- 8 障害のある人も特別な生活ではなく、みんなと同じ生活をしていることが分かりました。
- 9 特に感じたことは、目の不自由な人がみんなと同じ生活をしていることを知ったことです。
- 10 目の不自由な人の話を聞いて、「不安なことを安心に変えていこう」という勇気がすごいと思いました。
- 11 いろいろな障害者の人達から、いろいろな話が聞けて、たくさん学ぶことができました。
- 12 障害のある人が普通の人よりも強く生きていることを知って、僕も力強く生きていきたいです。
- 13 障害をもっている人とは思えないほど、いきいきと過ごしているように感じられた。
- 14 障害があっても、障害に負けない気持ちがあると分かってすごいと思いました。
- 15 みんなと同じように暮らしていることが分かり、びっくりしました。
- 16 進んで声を掛けたいと思いました。また、障害の人達は、とてもいきいきしていました。
- 17 たくさんの話を聞いて、声をかけてあげるといいと思いました。
- 18 障害者でも、みんなと同じく、いきいきと暮らしているのが分かりました。
- 19 障害のある人でも、みんなと変わらず生きているので、みんなと同じように接していきたい。
- 20 障害者とたくさん話ができただけで、「次のときに、もっと聞こう」と思った。
- 21 僕達と変わらない生活をしているので、困ることもあるけれど、めげずにかんばっているのだから、困っていることがあれば助けてあげたい。
- 22 耳の不自由な人は、手話などで一生懸命話を伝えようとしていて、すごいと思いました。みなさんが前向きなので見習いたいです。
- 23 障害のある人でも、みんなと同じように道を歩いたりしていることがすごいと思いました。
- 24 私達より元気で明るいので見習いたいいと思いました。声を掛けることが大事だと分かりました。
- 25 目の不自由な人が自分でお料理しているのを見て、すごいと思いました。
- 26 障害のある人も、一生懸命に生きていることが伝わってきました。
- 27 障害があっても、みんなと同じように暮らしているのだから、負けないようにしたいと思います。
- 28 耳の不自由な人や目の不自由な人達は、僕達と同じような暮らしをしていて、ものすごく頑張っているのだと思いました。
- 29 障害があっても、進んで外に行ったりしていて、すごいと思いました。
- 30 障害者でも、みんな一緒だということ。
- 31 障害者の人も普通にみんなと同じように暮らしていて、ビックリしました。
- 32 体は不自由だけれど、ぼくらと同じようにたくましく生きているということを学びました。僕も、障害者の人に負けないようにがんばります。

- 33 私は、白杖・アイマスクの体験で、居る場所が分からなくて怖かった。だから、不自由な人はとても大変な事が分かった。
- 34 体の不自由な人、高齢者が歩くまちをより良くいいまちにすれば良いと思った。
- 35 見ているときは何とも思わないけれど、実際に体験してみると、いつもと違う気持ちが出てきました。それは、「怖い」、「今どこにいるのか分からない」という不安な気持ちでした。その気持ちが分かったから、良い手助けが出来るのではないかと思います。
- 36 実際にいろいろなことを体験してみて、とても怖くて、本当に怖い思いをしている人達の力になってあげられたらいいと思いました。
- 37 私が1番「怖い」「どうしよう」と思った体験は、目の不自由な人の体験です。目隠しをしてやったので、とても怖かったです。私は、「目の不自由な人は、怖い思いをしているのだな」と改めて分かりました。
- 38 車いすや目の不自由な人の体験をして、障害をもつ人は毎日ずっと車いすを動かし、いつも真っ暗な中で過ごしていて、とても大変だなと思いました。
- 39 体験をしてみて、視覚障害者は大変な思いで杖を使い、点字ブロックを使っていることが分かりました。目隠しをして思ったのですが、もし前に階段があったらどうしよう、怖いという気持ちでいっぱいでした。
- 40 障害のある方は、こんなに大変だということを感じ、特に目の不自由な方は、どこを歩いているのか分からずに歩いていたので「怖い」ということを、とても感じました。また、車いすの体験では、手が疲れるということを感じました。
- 41 視覚障害者や聴覚障害者などの障害のある方は、障害の種類によって大変なことがあるので、視覚障害者と聴覚障害者が話し合うことはできない。
- 42 今まで障害者の方のことはあまり知らなかったけれど、この体験を通して世界にはいろいろな障害者がいることを知りました。
- 43 目が見えないととても怖かったので、視覚障害者の方はとても大変だと思いました。
- 44 たくさんの人と触れ合って、いろいろな障害があることが分かったし、障害があっても大変なことも分かりました。
- 45 いろいろな障害の方が来てくださいました。僕は障害がなく生まれているので、障害のある方がとてもかわいそうでした。
- 46 体験で目が不自由な方になったとき、前が何も見えなくて、階段から落ちないかと不安な気持ちでいっぱいでした。
- 47 危険なことはあるけれど、あまり障害が不便ではなさそうに感じました。
- 48 最初は、障害の人のことが分からなく、いろいろな体験や話を聞いて、「こういうことがつらい」「こうすればいいと思う」ということを感じました。
- 49 手話通訳の方が、手話を覚え始めてから仕事として行っていることが、すごいと思った。点字についても、覚えて暮らしているのがすごい。
- 50 障害者はいつもこんな感じで生活をしているのだということが分かりました。障害者の方に、いろいろな話が聞けて良かったです。
- 51 目が見えないと転んだりしそうで、すごく怖かったです。車椅子では、坂を上るときが大変でした。
- 52 たくさんの人と触れ合って、大変なことや頑張っていることを感じました。
- 53 目の不自由な人に、手すりが必要不可欠なことを知りました。
- 54 障害者には、不自由なことがたくさんあるのだと思いました。障害者を楽にしてあげたいと思いました。
- 55 目の不自由な人は、前も後ろも分からないのですごく怖かったです。
- 56 障害のある方は、大変だと思うので助けてあげたいです。
- 57 目の不自由な人は、点字ブロックがないと道に迷ってしまうので、迷っていたら手を貸したいです。
- 58 障害をもっている人が、こんなつらい生活で暮らしているのだと思った。
- 59 車いすで上り下りするのが大変でした。トイレなどで手すりがあるからすごいと思いました。
- 60 体験をしてみて、道で困ることや、今どこにいるか分からないので、なれないうちは怖かったです。
- 61 目の不自由な体験をしたとき、不安で平衡感覚が失われました。
- 62 どの体験をしても結構怖かったです。障害者の方は、大変だということを感じました。
- 63 いろいろな障害をもっている方が、どのような生活をしているのか体験して、障害がどのくらい大変なのか分かりました。

- 64 福祉の体験学習で、良い所や悪い所を工夫してほしい所などを聞いて、自分達にもできる工夫があると感じました。
- 65 福祉の学習は、この体験学習が初めてだったので、知ることもたくさんあったから、まち歩きなどにいかしていこうと思いました。
- 66 肢体障害者の方が乗っている車いすを見てみると、楽に乗っているように見えたのですが、実際に体験してみると、とても大変でした。特に、坂道が大変でした。
- 67 障害がある人達は、いろいろなことに困っていてもあきらめないから、すごいと思いました。
- 68 障害がある方は、僕達よりも大変な気持ちで過ごしていると思いました。
- 69 いろいろなところのバリアフリーがあった。
- 70 けやき広場は、みんなにやさしい場所だということ。
- 71 障害の方の暮しや気持ちが分かった。
- 72 車いすを動かすのに、疲れることが分かりました。
- 73 今はまだ、不便な場所があるので、そこをどうすれば直せるのか、考えてみたくなった。
- 74 目の見えない人は、こんな怖い思いをして生活していることが分かった。
- 75 実際に体験して、大変さや苦勞が良く分かった。
- 76 障害をお持ちの方は、大変だということ。
- 77 障害をお持ちの方の生活の大変さなどが、良く分かった。
- 78 車いすの人や視覚障害をお持ちの方は、大変だと思った。
- 79 新都心には、バリアフリーがいっぱいあるので、新都心みたいなのが出来てほしい。
- 80 障害者は、生活の中で大変だと思った。
- 81 大変なことや不便なことを知れて良かった。
- 82 アイマスク体験、車いす体験がとても怖いと思いました。
- 83 障害のことについて、もっと知りたいと思いました。
- 84 車いすに乗っていると、小さい隙間でもひっかかってしまうので大変だと思いました。
- 85 車いすに乗っているときに、周りの人にじろじろ見られて、車いすの方はじろじろ見られると嫌なのかなと感じました。
- 86 障害を持っている方の大変な所や不便な所が分かりました。
- 87 街のなかで困っている人を見つけたら、助けてあげようと思いました。
- 88 障害を持った方の困っていること、大変なことなどが聞けた。
- 89 いろんな障害を持った方が、たくさん話をしてくれたので、いろんなことが分かりました。
- 90 いろいろな所にバリアフリーがあり、意外な所にもあったので便利だなと思いました。
- 91 お話を聞いて、まちの工夫を増やせたら、もっともっとバリアフリーになるとと思いました。
- 92 アイマスク体験は、とても怖かったです。
- 93 目の見えない体験で、どんなに危険で怖いかを感じた。いろんなバリアフリーがあつてすごかった。車いすに乗って動かすことが大変だった。
- 94 いろいろなバリアフリーがあることが分かりました。
- 95 実際に体験をして、大変なことが分かりました。
- 96 アイマスク体験では、暗く、目を閉じたときとぜんぜん違った。けやき広場では、障害をお持ちの方のためのたくさんのバリアフリーがありました。
- 97 障害をお持ちの方が不便なことをなくそうと思った。
- 98 障害をお持ちの方に、たくさんお話をさせていただいて、障害を持っている方は、こんな思いをしていると感じました。

II 【問】 11月15日のまち歩き学習で感じたことを聞かせてください

- 1 点字ブロックの途切れや自転車が置いてあったので、せつかくの点字ブロックが何の役にも立っていないと思いました。
- 2 障害者が不便だと思っている段差・坂などを、実際に見られて良かったです。

- 3 まちの中には、便利なスロープがあるけれど、スロープになっていない所もあり、不便だと思いました。
- 4 さいたま新都心駅は、バリアフリーがたくさんあっていいと思ったけど、違うところに行くと点字ブロックが途切れているなど、不便なところがあったので、あまり良くないと思いました。
- 5 点字ブロックがあるなど優しい工夫があるけど、工夫が全くない所もあることが分かった。
- 6 まちには便利な物もあるけれど、不便な物もあるので便利な物を増やした方がいいと思った。
- 7 点字ブロックがたくさんあったけど、無い所もあったので作ってほしい。
- 8 まちの全部に工夫があるとは限らないが、「点字ブロック」や信号についている「障害者用ボタン」など、小さなところにも工夫があるのを感じました。
- 9 目の不自由な人を誘導したとき、電柱が結構あったので、なるべく無くした方がいいと思った。
- 10 点字ブロックがたくさんある所は安心ですが、無い場所については障害者の不安は無くならないと感じました。
- 11 こういう所は不便そうかな、こういう所は障害者の人にやさしいかな、というところをたくさん見つけられたと思います。
- 12 スロープはあったけど、急な坂になっていて登りにくいと思いました。
- 13 お店などでスロープになっている所はいいが、高い段差を工夫した方がいいと思う。
- 14 便利な所もあったけど、悪い所もあり大変そうだったので、便利にしていけばいいと思った。
- 15 実際に目隠しをして歩いてみたらフラフラするのに、みんなと同じように暮らしていることにびっくりしました。
- 16 まちには素晴らしい物があるけれど、もっとその素晴らしい物を作り出した方がいいと思いました。
- 17 私が調べた視覚障害者にとって点字の地図は良いと思ったけれど、点字ブロックみたいにもっと工夫がいる所もあって大変だと思いました。
- 18 少しの段差でも、障害者にとっては大変なことだと分かりました。
- 19 「みんなにやさしいまち」には、まだまだ工夫がいると思いました。例えば、みんなが使うエレベーターのドアが一方通行の物を増やした方がいい。
- 20 まち歩きでいろいろな事が聞けたから、「これをいかして、発表会をがんばろう」と思った。
- 21 車いすの人達には道幅が広いけれど、視覚障害者は点字ブロックが途切れたりしているので、点字ブロックが途切れないような工夫をした方がいいと思う。
- 22 普通の人には駅の地図の音声案内が分かるけど、知的障害の人は説明が細かくて分かりにくいので、分かり易くしたほうが良いと思います。
- 23 このまちは、音声信号機がもっと増えるといいけど、白杖が挟まるような穴があったので、なくなったらいいと思いました。
- 24 階段の横にスロープがあるところは優しいけれど、無いところもありました。
- 25 色々なことが分かって、いい点がたくさん見つかりました。
- 26 工夫がいっぱいあるまちだけど、いろいろな障害のある人が楽しく良い町にした方がいいと思います。
- 27 考えたこともなかったけれど、狭い道などがあることで危ないと思った。
- 28 段差やくぼみがあることで不便だと思うけど、このまちを良くすれば住みやすいまちになると思います。
- 29 障害者にやさしい所も、もっと工夫した方がいい所も色々ありました。例えば、音が鳴る信号機は優しいけれど、マンホールによって途中で遮断されている点字ブロックもありました。
- 30 スロープがあって歩きやすいけど、階段や段差は歩きにくい。
- 31 新都心ではとてもいい工夫があったけど、家の周りは点字ブロックが少ないので増やした方がいいと思います。
- 32 まちを歩いてみて、少し工夫されていたこともあったけど、もっと増やした方がいいと思います。
- 33 たくさん話もできたし、白杖で歩くときにポイントを教えてもらいました。
- 34 私達がなんの不自由も無く通っている通学路でも、いろいろな不自由があることが分かった。でも、障害の方にとってのいいところもたくさん見つけられた。私達のことを考えて作るよりも、お年寄りの方、障害のある方のことを考えながら作った方がいいのではないかと思った。良い所もあったので、このまちもやさしいと思いました。
- 35 まち歩きで障害をもった人と歩いたことで、障害を自分がもっているように感じられ、障害をもった人の大変さなどが良く分かりました。
- 36 目の不自由な人は、「段差があつたりすると、急いでいるとき転んだりしてしまうよ」と言っていたので、私は「段差があるところで転んでしまうのだから、段差をなくせばいい」と思いました。

- 37 ガイドさんが、危ない道、細い道などを覚えていて、安全な道を通るようにしていることが分かりました。
- 38 目の不自由な人と一緒に歩いて、目が不自由な人にとって大切なのは耳だと思いました。理由は、車や自転車がどちから来るのか、耳で判断していると思ったからです。
- 39 まち歩きをしてみると、点字ブロックがない歩道や場所があったので、目の不自由な方には危ないと感じました。目の不自由な人にとって、点字ブロックは本当に大切だという事を感じました。
- 40 高齢者が歩くまちでは、自転車や他の人が高齢者に対し、やさしくしてあげた方がいいと思った。
- 41 聴覚障害者は、駐車場から出る車に気づかないことがあるので、車が駐車場から出るときに光で伝えるものをつけてあげたい。
- 42 まち歩きで、私は高齢者のグループでした。高齢者のペースで歩いたり、質問したりすることで、高齢者がどのような障害を持っているか分かりました。
- 43 不便な所もあったけれど、便利な所もたくさんあったので、もっと便利な町になるといいなと思いました。
- 44 僕は高齢者と歩きました。そして、街のどんなところが危険かを聞いて、街にはいいところや直したら良くなるどころがいっぱいあるなと思いました。
- 45 いろいろな危険がある街で、一步を踏み出していることはすごいと思いました。
- 46 坂で急なところを下りるときにとても怖かったです。また、道がガタガタになっていて、車いすの方の乗り心地があまり良くないと思いました。
- 47 いつも通っている道でも、良く見れば、障害者の方にやさしい工夫があったり、工夫した方がよい所があったりしたので驚きました。
- 48 ここを工夫したら、みんなが安心安全に暮らせるまちになるけれど、何の障害かによっては、少し危ないのでこうしたらいいと感じました。
- 49 まち歩きでいろんなことが分かりました。
- 50 実際に車いすに乗って、デコボコした道を通ったり、スロープを上ったり下ったりしたけれど、車いすを利用している人はかなり大変だと感じました。
- 51 障害者にとって、困ることがたくさんありました。障害者の方は、町を歩いたりするだけでも大変だと思いました。
- 52 不便なことや便利なこと、たくさんのことを感じました。
- 53 目の不自由な人には、点字ブロックが必要だと感じました。
- 54 工夫されているところで障害者は楽に、工夫されていないところで障害者は苦勞する。この「苦勞」を無くしたい。
- 55 まち歩きでは、障害が大きい人でも大丈夫なように、いろいろ工夫がされている。
- 56 道が狭いところがあるので、もう少し広くした方が障害者にとっていいと思いました。
- 57 もっと工夫した方が良いところは、自分が歩いていても工夫されていないところもありました。
- 58 障害者でない人は関係ないけれど、障害者にとってはいやだと思うところがあると思った。
- 59 耳が聞こえない体験をしましたが、友達の声が聞こえなくて不便でした。
- 60 視覚障害者と一緒にまちを歩いたら、いろいろと出っ張っている物を触っていたので、杖が触る役割をやっていると思いました。
- 61 点字ブロックの経路にマンホールがあり、点字ブロックが途切れて危ないと思いました。
- 62 まちの良い所、悪い所をたくさん見つけることが出来ました。悪い所を少しずつ無くしていけたらいいと思いました。
- 63 実際に、障害をもっている人と歩きましたが、点字ブロックの途中が途切れて少し迷ってしまうことがあり、大変だと思いました。
- 64 話を聞いたときよりまちを歩いてみると、良い所や工夫してほしい所がいっぱいありました。
- 65 まち歩きで、良い所や変えた方がいい所など、いろいろな所があったので、だれもが住みよいまちにしていきたいと思う。
- 66 バリアフリーはたくさんあったけれど、少しだけバリアもあったので、障害者の方にとって楽な部分と大変な部分があることが分かりました。
- 67 耳に障害のある人と歩くとき、暗い道を通らないように工夫をしているところが、すごいと思いました。
- 68 まち歩きをしてみて、障害のある方の変えさが分かった。
- 69 点字ブロックなど、障害者のためにある道具の大切さが分かった。

- 70 まちには少し不満な所もあるということ。
- 71 まちには、危険な物がいっぱいあるのが良く分かった。
- 72 毎日こんなことがあって、大変だと思った。
- 73 障害者の方が、「手助けしてくれるといいね」と言っていたので、手助けをしたい。
- 74 耳の不自由な方は、こんな身近な所で危険を感じているのだと思いました。
- 75 不自由な方と一緒に歩いて、「今、耳が聞こえなくて、何を思っているのかな」と思った。
- 76 まちにはいろいろなバリアフリーがあって、障害をお持ちの方の住みよいまちになっている。
- 77 段差や溝が、障害者の方の敵のようで、大変だと思った。
- 78 街には、いろいろなバリアがあった。
- 79 まだ、不便なところがたくさんあったので、もっと便利になってほしい。
- 80 視覚障害の方は、段差など不便な所もあるし、点字ブロックなどの便利な物もあると分かった。
- 81 車いすに乗ったけど、車いすの方の不便さが分かった。
- 82 聴覚障害者の人は、狭い道などをあまり通らないことや、ベルを鳴らしたら光る物があることが分かりました。
- 83 高齢者の方と一緒に歩きましたが、いつも注意していることなどが分かりました。
- 84 私達が普通に通っている道でも、障害をお持ちの方には危険だと思いました。
- 85 まだ、まちにはたくさんの不便があって、大変だと思いました。でも、便利もたくさんありました。
- 86 不便とを感じる場所や道がありました。
- 87 まちの中にはいい物もあるし、邪魔なものもあるということが分かりました。
- 88 まち歩きをして、まちにはいろいろな工夫がされていた。
- 89 信号で音が鳴る場所や、スロープがあったので、すごかったです。
- 90 点字ブロックなどの道具の大切さが分かりました。
- 91 点字ブロックが階段につながっていない所や、段差の所はどうするのだろうと思いました。
- 92 目の不自由な人は、「階段の上り下りを教えてくれればいい」と言っていたので、見つけたら教えてあげようと思いました。
- 93 まち歩きで、こういうのが危険とか、危ない道などを教えてもらい、障害をもった方は大変だと思った。
- 94 道路の溝をうめることです。
- 95 まだまだ、不便があると分かりました。
- 96 一緒にまち歩きをして、大変さがもっと分かりました。
- 97 点字ブロックの上に石などを置かないようにしようと思いました。
- 98 声をかけて助けてあげようと思った。
- 99 実際にまち歩きをして、便利なこと、不便なことが分かり、不便なことはどうしたら良くなるのか考えることが必要だと感じました。

Ⅲ 【問】 12月5日の発表会で感じたことを聞かせてください

- 1 この発表会で発表したことが実際に活かされたらどうなるのだろう？と感じました。
- 2 障害者が私達の話を一生涯懸命に聞いてくれて、温かい気持ちになりました。
- 3 模造紙に書いたたくさんの思いを伝えられることが出来て良かった。
- 4 発表会をまちづくりの方に聞いてもらって、その不便な所が本当に便利になってほしいです。
- 5 みんなで一生涯懸命調べ、それを障害者に聞かせ、みんなが思いを伝えていることを感じました。
- 6 最後まで言えて、いろいろな人が手をあげてくれたので、まちづくりのことなどをちゃんと言えたと思います。
- 7 忙しいなか、聞きに来てくれてうれしかったです。
- 8 自分の発表のとき、障害の人や、他のクラスの人にも気持ちが伝わって聞いてくれたことがうれしかったです。
- 9 発表では、目の不自由な人のことを考えながら発表し、質問に答えられたことが良かったです。
- 10 話を聞いてくれたので、とてもうれしかったです。
- 11 すごく緊張したけど、最後まではっきりと大きな声で分かり易く発表できたと思いました。
- 12 他の人の発表で、どんなことが障害のある人に迷惑なのか、どんなことがやさしいのかが分かりました。

- 13 発表を終えたとき、たくさんの人から拍手をもらって、分かってもらえたと実感した。
- 14 こんな所が大変だと分かってくれ、手伝ってほしい所を聞いてくれてうれしかったです。
- 15 最初は緊張したけど、最初から最後までしっかり声を出せたので良かったです。
- 16 自分なりにうまく出来たと思いました。でも、それはみなさんのおかげです。みなさんが居なかったら、うまく出来なかったと思います。
- 17 発表会ではたくさんの人が聞いてくれて、最後にはみんなに気持ちが伝わったので良かったです。
- 18 障害がある人にも、ない人にも、心のバリアフリーが大切だと分かりました。
- 19 大勢の人に自分達の気持ちを聞いてもらい、聞いてくれた人もそのことについて考えてくれると思います。
- 20 発表会は大成功だと思いました。
- 21 障害のある人からの質問や感想を聞いたときに、困っていることもいっぱいあるけれど、一生懸命に生活していることが伝わってきました。
- 22 高齢者の方は声が小さいと何を言っているのか分かりにくいので、大きな声で話すと良いことが分かりました。
- 23 自分の発表をしている時に、見ている人が真剣に発表を聞いてくれたので良かったです。
- 24 障害者の方たちが発表を聞いてくれて、私達の感じたことを聞いてくれてうれしかったです。
- 25 きちんと聞いてくれたので、分かってもらえたのかと思います。
- 26 しっかり考えて、理由も言えたので良かったです。
- 27 今まで、学んだことを発表できて良かったです。
- 28 大きな声で発表できたと思います。
- 29 発表を聞いてもらえてうれしかったです。私達の考えたアイデアが実行されるといいです。
- 30 ユニバーサルデザインやバリアフリーは、障害者や高齢者等にとって大切だということ。
- 31 自分の考えたことを聞いてもらって、いっぱい質問がでて良かったです。
- 32 調べたことが発表できて良かったです。
- 33 発表会までに考え、悩んだりしたこと。直した方がいいところも伝えられたので良かったです。
- 34 自分達が体験したことをまとめることがとても難しかったが、私達の知恵を聞いてくれて、障害のある方やお年寄りの方が、うれしくなってくれるといいと思いながら発表をしました。私達にとって出来ることは、とても単純なことですが、それが1番助かるということを心にいれて発表しました。
- 35 発表が終わったあと、車いすの人から話があり、「すごくいい発表だった。これをいかしてほしい。」と言われたので、障害をもつ人も便利な生活をしたいと思っていることが分かり、障害をもっている人に手助けをしてあげたいと強く思いました。
- 36 発表会のとき、いろいろな人が感想を言ってくれました。一人の子が「発表がとても聞きやすかったです」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。
- 37 みんな発表をよく聞いてくれて、目の不自由な人についてよく分かってくれたと思います。
- 38 他のクラスの発表を見て、よく分かりました。
- 39 他のクラスの発表を見ていて、「なるほど」という事が感じられました。
- 40 自分達で考えたことをきっちり発表できたので良かったです。
- 41 知的障害者は、普通の人と比べて、初めて歩けるのが遅いのがかわいそうだと思った。
- 42 発表会では、今まで私達に協力してくださった人達が来てくれて、その人達に感謝の気持ちを込めて今までの成果をだしました。
- 43 他のグループの発表を聞いて、視覚障害者以外の人とても怖くて大変なのが分かりました。
- 44 いろいろな人が来ていて緊張したけれど、自分が調べたことを聞いてくれてうれしかったです。
- 45 いろいろな障害の話聞いて、大変だと思いました。
- 46 まちの良い所、悪い所を探していくと、いろいろな問題が分かりました。例えば、車の方に集中してしまうと、車いすの方が大変になるなど、たくさん問題点が見つかりました。
- 47 僕は肢体のことを発表したけれど、他のクラスの発表を聞いて、声をかけてあげることなど、基本は同じようにやさしくすることだったので、基本をしっかりやろうと思いました。
- 48 初めは、すごく震えていたけど、上手く出来ました。
- 49 障害者の方が、模造紙に書いた内容を見て、「こうしたらもう少し楽になるけど、こうしたら少し不便だから、安

- 全なまちはどう作ればいいのか」と質問をしていたので、僕達もみんなにやさしいまちにしてあげればということを感じました。
- 50 他のグループも私達のグループも、まちには工夫されているところも、工夫をした方がよいところもあったけれど、私達は困っている人の手伝いをしようと思いました。
- 51 障害者の方がそばで聞いていたので、私達の思いが伝わった感じがしました。
- 52 たくさんの人が発表会に来てくれて、自分達のことをたくさん話せて、たくさんの人が「笑顔になれたかな」と感じました。
- 53 発表会で、バリアフリーが大事だと思った。
- 54 障害者について学べたと思う。みんなが支えあうことが必要だと思いました。
- 55 障害によって、こんな工夫をしているというのが発表会で感じた。
- 56 障害者に不便がない町にしたいと思いました。
- 57 高齢者の人も車いすを利用している人と一緒に、階段などの段差がある所は上りにくいのでスロープがあった方がいいます。
- 58 障害のことについて調べ、保護者のみなさんに障害者はこんなことが大変ということを教えられて保護者の方はこれから障害者のために何をしてくれるのだろうかと思った。
- 59 発表会で、目に障害がある人のことを聞きましたが、いろいろな種類の点字ブロックがあることが分かりました。
- 60 障害者に工夫が必要な所や便利な所がたくさんあったので、工夫が必要な所は作ってください。
- 61 みんながあまり考えなかったことも、みんなで考え、悩みを解決してきたので、これからも頑張っていきたいです。
- 62 障害者の方のことをたくさん質問してもらえたので、どんなことが大変なのか分かってもらえたと思います。
- 63 調べたことをみんなに発表することができました。そして、他のクラスの人の調べたことも、いろいろ分かりました。
- 64 いろいろな組が、これまで行った体験をいかしていたと思います。
- 65 親やお世話になった人達に見せるので、緊張しました。でも、精一杯出来たので良かったです。
- 66 これまで、バリアフリーのことを教えてくれた方たちが見に来るので、とても緊張しましたが、これまでの経験をしっかり伝えようとがんばりました。
- 67 障害のある人や僕たちみんなで、力を合わせてやさしいまちにしたいと思いました。
- 68 よくできたと思います。
- 69 障害者の方のフォローの仕方が分かった。
- 70 みんな良く学習できたと思った。
- 71 体験をしたときに一緒だった人達にも声をかけてもらったりして、発表できて良かった。
- 72 発表するときは緊張したけれど、みんなに伝えられることができて良かったです。
- 73 「このことを発表して、自分のまちが変っていけるかな」と思った。
- 74 みんな細かい所まで調べていた。
- 75 みんな、自分の発表のとき真剣に発表していた。
- 76 僕達が調べた障害以外にも、障害をお持ちの方は大変だということが良く分かった。
- 77 うまく発表できなかったけれど、改めて大変さを感じた。
- 78 緊張したけれど、みなさんが聞いてくれたので良かった。
- 79 みんな良い発表をしていたし、僕も、調べたことを大きな声で発表できて良かったです。
- 80 不便や便利ではなく、もっと工夫も大切だと感じた。
- 81 いろいろな方に聞いてもらえて良かった。車いすの方から、詳しく教わったことも発表出来て良かった。
- 82 まちづくりのみなさんから、学んだことをまとめたものを発表して、僕達の伝えたいことが伝わったと思います。
- 83 他のグループの発表を聞いて、知ることもありました。
- 84 たくさんの方々が見ていて、私達の発表をまちづくりにいかしてほしいと思いました。
- 85 他の障害を持っている方に共通していることは、「声をかけて手伝う」という事が分かりました。
- 86 いろいろな障害のグループに分かれて発表をしたけど、「まとめ」としては同じでした。
- 87 他のグループの発表を聞いて、いろいろな障害のことが分かった。
- 88 改めて、たくさんの障害があるのだと思いました。

- 89 いろいろな人が、まちなどで不自由しているということが良く分かりました。
- 90 たくさんのお客さんの前で発表するのは緊張したし、練習をする時間がなかったので、模造紙を読んでいるだけになってしまいました。
- 91 見に来てくれて、とてもうれしかったです。
- 92 調べたこと以外で、他の障害の人達も大変だと思った。何か、力になればいいと思った。
- 93 みんないろいろなことを調べていて、よく分かりやすかったです。
- 94 私は他の人の発表を聞いて、この障害を持った方はこんな場所が多いと大変だとか、もう少しここは工夫してもらいたい、などを感じました。
- 95 私は視覚障害について調べたけど、他の障害についても、話を聞いたので知ることができました。
- 96 これからどうすればいいのかが、良く分かった。
- 97 自分達で作った模造紙を、たくさんの人に見てもらい、うれしかったです。

IV 【問】 皆さんが感じたことを、これからの生活の中でどのように活かしていこうと思いますか

- 1 調べてみて、自分たちが身近で役に立つことがたくさんあると分かったので、困っている人がいたら声をかけ、自転車を点字ブロックの上に置かないなど、出来ることはしたいです。
- 2 歩道を歩いていて困っている人がいたら、障害者だけでなく、色々な人に声を掛けてあげようと思った。
- 3 出来ることは何でもしたいです。声をかけてあげる、サポートをしてあげるなど、自分から先に行動したいです。点字ブロックの上には障害物を置かないようにします。
- 4 困っている人に声を掛けたりして、すてきなまちにしていきたいです。
- 5 まちで困っている人に声を掛けられるようにしたいです。
- 6 障害の人は、困っている時に声をかけてくれたら助かると言われたので、進んで声をかけていきます。
- 7 困っていたら声をかけるなど、今出来ることを一生懸命行って、もっと大きくなったら大きなことをしていきたいです。
- 8 まちを歩いている障害者が困っている時があったら声を掛けてあげると、掛けられた人も自分もスッキリしていいと思いました。
- 9 これから目の不自由な人に会ったら、やさしくゆっくりと声を掛けて、障害のある人と障害のない人が協力して生活していきたいです。
- 10 障害のある人達のためにお手伝いや、障害のある人が困ることのないように点字ブロックに物を置かないなど、私達が出来ることを1つずつしていき、安全でやさしいまちにしていきたいと思います。
- 11 障害者の人が困っていたら、声をかけて手伝ってあげます。やさしくしたいと思います。
- 12 高齢者の人や知的の人には、大きな声でゆっくりと、はっきり話してあげたいと思います。誰でも困っていたら、優しく接することで助けてあげたいです。
- 13 声をかけてあげたい。
- 14 一つひとつの障害で、苦手なことや大変なこと、手伝ってほしい所が分かったので、外出したときに学んだことを思い出して手伝います。
- 15 僕は知的の事を調べたけど、視覚・聴覚・肢体・高齢など、いろいろな人の助けになればいいと思います。
- 16 これまで、障害のある人を見かけても何もしなかったけれど、福祉という体験でいろいろなことを学んだので、これからは声を掛けていきたいと思います。
- 17 これからは、障害のある人に声をかけ、手伝いをしたいと思います。
- 18 障害者が困っていたら手伝ってあげ、ともに生きていくことが大切だと思います。
- 19 これから、勇気をだして声を掛けます。
- 20 これから、障害者が住める良い町にするため、自分達で工夫できる事はしていこうと思います。
- 21 一生懸命に生活しているので困っていることがあったら、声をかけてあげ、不便の所を無くすと良いまちになると思います。
- 22 障害をもった人が困っていたら、「大丈夫ですか」と生活の中で声を掛けられたらいいと思います。
- 23 高齢者の方には、大きな声でゆっくり、はっきり話します。車いすの人には目を合わせて話します。知的障害者の

- 人が困っていたら、分かりやすく教えてあげます。
- 24 足の不自由な人を見たらドアを開ける。声を掛ける。
- 25 発表したことをいかしたいです。
- 26 困っている人を見かけたら、「大丈夫ですか」や「お手伝いしましょうか」など、声を掛けます。小さなことを積み重ねていけば、きっと大きな力になると信じ、願っていきます。
- 27 障害をもつ人達に声をかけ、やさしく接していきたいです。
- 28 声を掛けてあげたい。
- 29 声を掛けてあげようと思います。
- 30 お年寄りに電車の席を優先席でなくてもかわってあげる。
- 31 生活の中で困っている人がいたら、まっさきに「何か困っていませんか」と言いたいです。
- 32 障害者の人は、たくましく生きていることが分かりました。障害者の人が困っていたら、「お手伝いしましょうか」と声をかけたいと思います。
- 33 困っている人がいたら声をかけてあげて、手伝ってほしいと言われたら、手伝ってあげたいと思います。
- 34 自分達が体験をして、お話を聞いて、私達の普通がいろいろな人にとっての苦痛や不自由になっていることが分かりました。私達のまちには、毎日通っている通学路でも、よい工夫が見つけれなかったが、体験をしていろいろないいこともあることに気がつきました。発表の準備をしている時、自分達に出来ることがどんなに単純でもどんなに小さくても助かることが分かり、大人にしかできないと言いきっていたけれど、私達にも出来るということが分かり、出来ることは協力しようと思いました。これから私達に出来ることを出来る限り協力していきたいです。障害を持っている人が学校の同級生になったとしても、楽しく差別なく生活していきたいです。
- 35 私達は、みなさんと一緒に勉強をさせていただきましたが、一番強く思ったのは、障害をもつ人もたない人関係なく、みんなが便利な生活をしたいと思っていて、こんな思いのなかで障害をもつ人は一生懸命生きているので、そんな人達がまわりにいたら小さなことでも助けてあげてバリアを壊していきたいと思いました。
- 36 これからは、障害のある方に自分出来ることは何かと考え、出会ったときにその考えたことをしてあげたいと思います。
- 37 生活のなかで障害をもつ人がいたら声をかけてあげようと思いました。障害をもつ人にとって、住みよいまちになればいいと思いました。
- 38 私の家は駅に近いので、視覚障害者を2回見かけたことがあります。その時にもガイドさんがついていました。だから、私も体が不自由な人や耳が不自由な人達を助けていきたいです。また、車いすの人にも軽く押すぐらいなら、私達にも出来ると思います。
- 39 高齢者や目の不自由な方が困っていたら、学習で学んだように助けてあげたいと思います。また、点字ブロックの上に障害物を置かないようにします。
- 40 これからは、体の不自由な人、高齢者の人達に、もっとやさしくできるまちにしたいです。僕達も困っている人を助けるので、もっと明るく良いまちにしていきたいです。
- 41 障害のある方が困っていたら道を教えるなど、手伝ってあげようと思った。
- 42 これで終わりではなく、登校や下校時等に感じたり、私の家で暮らしている祖父母に聞いたりして、これからも障害者に協力したいです。
- 43 どこかで障害のある方を見つけたら、声をかけてあげ助けてあげたいです。点字ブロックの上に自転車を置いたりしないように、気をつけていきたいです。
- 44 僕はたくさんの障害について学びました。だから、この体験をいかして、障害をもっている人の手伝いをしていきたいです。
- 45 これから、この生活で助け合うということを中心にやっていきたいです。
- 46 不自由な方からは「手伝ってください」とは言いづらいと思うので、進んでお手伝いをすることです。また、電車などで高齢者が困っていたら、進んで席を譲ろうと思いました。そして自分に出来ることは自分でやろうと思いました。
- 47 肢体障害者の方が、「激しい段差があると、車いすから落ちてしまう」と言っていたので、しっかり支えてあげようと思いました。僕達が、やさしいことをして、それを真似してまちの人全員が行い、さらに県全体に広がり、日本人全員がやさしくなるように頑張っていこうと思いました。

- 48 目が不自由な人が、音がしない物を落としていたら拾ってあげます。耳が不自由な人が歩いていて後ろから自転車が来ていたら、やさしく肩をたたいて教えてあげる。高齢者が重い荷物を持っていたら一緒に持ってあげる。困っている人がいたら手伝うことを忘れずにやっていきます。
- 49 いろんなところで使いたいです。
- 50 例えば、道に置いてある自転車を端によせて、車いすを利用している人にとって狭いと感じさせないようにしたり、私達には出来ないけれど、スーパーの道を広くしたり、グリーンゾーンを広くしたりするといいと思います。また、スロープをつけると車いすを利用している人だけでなく、高齢者の方にも役立つと思いました。
- 51 障害者の方を見かけたら、声をかけて手伝ってあげようと思いました。声をかけてくれるだけで、すごくうれしいと言っていたから、そう思いました。
- 52 高齢者の方には、笑顔で挨拶をして、目の不自由な方達には手伝ってあげ、いろいろ学んだことをいかしていきたいです。
- 53 いろんな人が「住みよいまちにする」ために工夫をしていこうと思います。
- 54 障害者にとって住みよいまちを作るために、私は今まで学んだことをいかそうと思います。これからの生活の中で、障害者のことを思いながら、いかしたいと思いました。
- 55 点字ブロックの上には物を置かないようにすると、目の不自由な人が困らなくてすむ。
- 56 世の中にはいろいろな人がいるので、困っている人を見たら声をかけてあげたいと思います。また、体験したことをいかしてがんばります。
- 57 困っている人がいたら声をかけ手を貸してあげ、困っている人がいないまちにしていきたいです。
- 58 障害のことを調べて大変だと分かったので、困っている人を見つけたら声をかけてあげ、今よりも障害者が暮らしやすいまちにして、安心して楽しく過ごせるまちにしていきたいと思いました。
- 59 点字ブロックの上に自転車などが止まっていたら、どかさうと思いました。耳が不自由な人が何かを落として気づかなかつたら、拾ってあげようと思いました。高齢者が使う手すりが水で濡れていたら、拭いてあげようと思いました。
- 60 発表会の時に言ったことを行っていこうと思います。また、バスの席などを譲ってあげたいと思います。
- 61 あまり障害のある方と会うことはありませんが、この体験によって、少しでも親切なことや障害のある方にとってうれしいことをしていきたいです。
- 62 まちの中で困っている人がいたら助けてあげようと思いました。障害者の方は大変だと分かったので、障害者の方に声をかけてあげたいです。
- 63 これからは、障害のある方が困っていたら、まず、声をかけてから障害のある方に触れ、手伝ってあげようと思います。
- 64 よりよいまちにするために、自分達ができる工夫はやりようと思いました。
- 65 これからは学習したことをいかして、日頃から、やさしさを持って、いろいろな人を助け、どんどんこのまちをよくしていきたいと思います。
- 66 これから、生活で障害者の方々を嫌な目で見ないようにしたいです。困った顔をしていたら、たくさんお手伝いをして、うれしい顔にしていきたいです。目の不自由な方には、信号を渡らせてあげ、今回のことをいかしていきたいです。
- 67 発表会で考えたことを、やさしいまちづくりにいかしていこうと思います。
- 68 障害がある方が、楽に出来るようにしたいです。
- 69 みんなを助けたいです。
- 70 みんなにやさしくなって、みんなにやさしいまちにしたい。
- 71 みなさんが言っていたように、困っている人がいたら、助けてあげようと思います。
- 72 障害者の方が困っていたら、声をかけてあげたいです。
- 73 外を歩いているとき、困っている人がいたら一声かけて手伝ってあげる。
- 74 調べたことを、しっかりいかしていく。
- 75 不自由な方が困らないように歩くようにする。
- 76 障害をお持ちの方を見つけたら、手伝いをして、すみよいまちづくりに協力する。
- 77 もっとみんなにやさしいまちづくりや、自分達がいま出来ることは何でも行えるようにしたいです。

- 78 障害をお持ちの方が、楽に暮らせるようにしたい。
- 79 もしも、困っている人がいたら、声をかけて助けてあげたい。僕達に出来ることをやりたいです。
- 80 声かけや工夫など、障害者の方のために役立てる事が大切だと感じた。
- 81 点字ブロックなどに、自転車を置かない。車いすに乗っている方が来たら、道をあける。
- 82 障害を持つ方にやさしくしようと思いました。
- 83 障害の方に会ったら、助けてあげたい。
- 84 声かけをしようと思います。
- 85 たくさんのお手伝いをしてあげたい。不便などを見つけたいです。
- 86 これからは、障害を持っている方が困っていたときに声をかけや助けをしてあげたいです。
- 87 便利なものを増やしていく。障害をお持ちの方がいたら、声をかけて手伝ってあげる。
- 88 自転車を点字ブロックの上に止めたら危ないから、自転車は駐輪場に止める。
- 89 困った人を助けたいです。
- 90 これから生活の中で、みんなに出来ることを少しずつしていきたいです。
- 91 まちの工夫をもっと増やしていきたいです。
- 92 目の不自由な方を見つけたら、学習をいかして手助けをしたいです。
- 93 困っている人がいたら助ける。障害の人、自分達、妊婦さん、お年寄りの人に住みよいまちにする。教えてもらったことをいかして、みんなが仲良くできるまちにする。
- 94 みんなが、安全に暮らせるようにしようと思います。
- 95 高齢の方がいたら、声をかけてあげたいです。バリアフリーをもっと見つけたいです。
- 96 困っているようであれば、お手伝いなどをしたいと思いました。
- 97 点字ブロックの上に、自転車などを置かない。困っている人がいたら、やさしく助けてあげたいです。
- 98 声をかけて、歩行を助けたいと思った。
- 99 障害をお持ちの方にとって、困ったことがないように自分達にできることが大切だと思いました。

平成23年10月26日 体験学習時 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 体験学習に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 子どもたちが興味をもって集中してくれたのでとてもやりやすかった。また、子どもたちだけではなく、先生たちともお話できる時間が持てたら良いと思いました。【障害者団体】
- 2 生徒が行う活動内容で、妊婦さんの演技は大変であったと思う。また、あそこまで児童にご指導下さった先生をはじめ、関係者のご苦勞も、そしてよく児童が役を引き受けてくれたと思うと、日頃の先生とのコミュニケーションが確立していたことと思う。児童たちが今日の授業を見て聞いて、どう捉えたか、後日聞きたい。【部会委員】
- 3 初めての参加でしたが、一方的な押し付け授業ではなく、生徒たちが今日の趣旨を理解し、真剣に受講している姿を見て感心しました。一委員として、今後も出来る事は協力をしていきたいと思います。【部会委員】
- 4 生徒たちに、体の理解を深めてもらうかという取り組みとしては、大変面白いと感じました。知的障害とコミュニケーションの重要性のもっと発展型に興味があった。【障害者団体】
- 5 4年生の皆様がとても行儀が良いと思った。【ボランティア団体】
- 6 良い質問をたくさんいただき、参考になりました。【ボランティア団体】
- 7 初めての体験で、いい勉強をさせていただきました。久しぶりに元気な子どもさんに接する事ができまして、感動するばかりです。【ボランティア団体】
- 8 生徒さんたちが活発でした。【障害者団体】
- 9 大変良かった。【障害者団体】
- 10 広く浅くいろいろな取組が行われていて良かった。【障害者団体】
- 11 誰もが住みよい思いやり溢れるまちー障害者の方、子どもたちから学ぶーと多々ありました。日常的なノーマライ

ゼーション。マイノリティといわれる視覚、聴覚、身体的、知的障害の方の前向きな生き方に感銘し、金子みすず氏の「小鳥と鈴と・・・みんな違ってみんないい」という言葉のような優しさや思いやり、支え合い助け合うことを、もっと周知・啓発し合うことが大切と学びました。とかく個々の生活に忙殺され周りを見ない世の中、私自身も反省し、地域活動に活かしたい思いです。市の社会教育委員の会議に少しでも思いやりの福祉のまちづくりの大切さを、繋げさせて頂きたいと思います。【部会委員】

II 【問】 児童の気づきや言葉などで印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- 1 普通に話せるってすごい！【障害者団体】
- 2 言葉遣い、こちらの指示を素直に聞いてもらうことが出来、態度がとても良かった。大人である私の目線で受け答えしていたことに反省します。【部会委員】
- 3 生徒たちが講師に対して、積極的に質問していることや、ワークシートに書ききれないくらい記載しているのを見て、福祉に対して興味を持っていることに感心しました。また、道路管理者が設置している視覚障害者用点字ブロックの意味や、その中で「線状ブロック」と「点状ブロック」の違いまで知っていることに驚きました。【部会委員】
- 4 視覚障害者に対して日常的に接していない様子なので、質問に困ったように思えた。【ボランティア団体】
- 5 良い質問をしてくれました。【ボランティア団体】
- 6 思ったより言葉遣いも丁寧なことにびっくりです。【ボランティア団体】
- 7 皆さんが質問してくださり良かった。【障害者団体】
- 8 障害者を良く理解して質問をしてくれた。点字に対して、良く観察してくれました。同音、異義語についての質問に感動しました。【障害者団体】
- 9 妊婦体験のモデルをした女子生徒が落とし物を拾うのはとても大変だったとお母さんもそういう思いをいっぱいしてあなたを産んでくれたのねー深くうなずく顔に私も母を思い出し、思いやりや感謝の心を、代々伝えていくべきと思った。【部会委員】

3 【問】 次年度に向けての問題や課題、改善したほうがいいと思われることなどお聞かせください

- 1 学校のスペースもあり、やむを得ないと思いますが、会議室だと隣のグループの声もあり、話が聞きにくい場面もありました。最大でも1スペース2グループだと思いました。【障害者団体】
- 2 5・6年生の総合学習も取り組まれては。この場合、グループごとに分けなくて、（視覚・聴覚・高齢者・知的・妊婦等）対象者に質問が出来る体制にしては。5・6年生ともなるいろいろな面（人を助けるなど）で日常を捉えていると思うので、福祉のまちづくりの寸劇を行いながら、児童が係ってみて（寸劇の指導は先生・社協・まちづくり関係者等）学んでみては。【部会委員】
- 3 諸事情があると思いますが、モデル地区事業が年度事業であれば、早期開催（1学期のカリキュラム）が出来ればと思います。例えば、来月開催予定のまち歩き学習等で、生徒たちが学校周辺の横断歩道標示が消えかかっているとか、点字ブロックを設置した方が良く、ハード面（安全施設）の意見が出たときに、出来るだけ反映させてあげられるためには、年度末より年度初めの方がより対応可能になります。自分たちの意見が、目に見えて反映されれば、より励みになると思います。【部会委員】
- 4 時間が短くて、ちょっと残念に思った。【障害者団体】
- 5 ひとつのグループにさせていただきたかった。【ボランティア団体】
- 6 実体験の尊さ、大切さ。これからも行っていただきたい。子どもたちの目の輝きに驚かされた。【ボランティア団体】
- 7 時間が長い方が良かった。【障害者団体】
- 8 時間をもう少しとって欲しい。【障害者団体】
- 9 時間が少なく、話をしたいことが十分に伝わらなかった。3回にわたって同じ話をするのは、ちょっと大変だった。ので、グループ分けをせずに時間を多く取った方が良く。【障害者団体】
- 10 誰もが住み易い思いやりのまちへの基盤が、小学校教育からと勉強をさせて頂きました。【部会委員】

平成23年11月15日 まち歩き学習時 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】まち歩き学習に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 バリアフリー法や福祉のまちづくり条例では、車いす使用者や視覚障害者に対する整備基準が主であり、聴覚障害者に対する配慮事項としては、EV内の管制運転時文字表示装置（地震時・火災時・停電時）の設置やホテル等の客室入口のフラッシュ装置、案内設備における文字情報設備、避難口誘導灯のフラッシュ装置など限られた対応しか認識していませんでしたが、この度のまち歩きで障害当事者の方と直接お話する機会を得て、音のない世界の不便さ、交通不安等、知ることができ大変勉強になりました。また、会話（手話）をしながら歩いている時に、高低差や障害物が聴覚障害者の方にとってもバリアであることを気付かされたことも大きな発見でした。【市関係課】
- 2 生徒さんが、まちの中で色々な事を感じとっている姿を、本当に嬉しい想いで見ていました。障害のある子・人達が、まちの中で変な目で見られることなく、優しい気持ちで見守っていただけることは、とてもありがたいことです。小さい時から、色々な立場で思いやれる事を学習する場をありがとうございました。とても楽しい時間でした。【部会委員】
- 3 担当者の指導に従って行動し、しっかりメモをとっていた。【部会委員】
- 4 生徒たちが、熱心に学ぶ姿勢があり、また、協力参加された当事者の方々と意見交換も活発になされて良かった。【部会委員】
- 5 中学校沿いの歩道のガードレールが、歩道から離れ落ち易い。健常者にとっても危ない。街づくりが健常者目線になっているのを感じた。【部会委員】
- 6 子どもさん達の真剣な目に感動しました。【ボランティア団体】
- 7 普段の生活で気がつかない点字ブロックの意味、小さな段差、ゆるやかなスロープさえ、身体の一部が少し不自由になっただけで、危険な場所になることを子どもたちが学べて良かったと思います。【保護者】
- 8 アイマスクと白杖は効果的でした。次回もこのような疑似体験を入れたまち歩きを続けてほしいと感じました。【市関係課】
- 9 聴覚障害者のいつも感じていることが知れて良かったです。自分が思っていることと違うので、びっくりしました。【保護者】
- 10 視覚障害者の方といっしょに歩きましたが、目の不自由な方を見て、歩くことに難しさを感じました。【保護者】
- 11 最初は慣れなくて大変そうでしたが、慣れてくると積極的で良かったと思いました。【障害者団体】
- 12 初めての道でしたが、無事に終わり良かった。【ボランティア団体】
- 13 視覚障害者の方が生徒さんといっしょに外へ出て、白杖の使い方などを細かく教え、実際に生徒さんも体験したことは貴重なことだと思いました。【ボランティア団体】
- 14 たびたび止まって説明をする機会があつて良かった。【障害者団体】
- 15 視覚障害者の方と道を歩く事は初めてでした。テレビなどで知っていることよりも、大変で心身共に疲れる事が良くわかりました。また、ただ道を歩くことに、大変な障害物がいっぱいあること、音の大切さなど、私たちが考えなければいけない事がたくさんある事に気がきました。私たちに、何が出来るか、子どもたちとこれから考えていきたいと思います。【保護者】
- 16 普段、道路を実際に利用する方の声を聞く機会は少ないので、貴重な時間でした。（特に、知的な障害を持つ方の意見は、ほとんど聞くことはなかったの）【市関係課】
- 17 車いすでの街の移動は、思っていたよりも難しく、車いすでは行けない場所もあるなど、普段気付かないことを体

験することができて非常に参考になりました。【市関係課】

- 18 講師とゆっくり話をしながら歩くことで、「聴こえない生活」についての理解が深まるとともに、講師と子どもたちの距離が縮まり、子どもたちが講師を身近に感じてくれたのがわかり、嬉しく思いました。【市関係課】
- 19 生徒が熱心に取り組んでいた。このような授業があるためか、車でポケットからスイカを出すとき杖を落としたが、拾ってくれた小学生が「何かお手伝いすることがありますか」と言われて嬉しかった。【障害者団体】
- 20 参加した児童の人数は適当な状況で、保護者2名も児童を気遣う配慮があった。【部会委員】
- 21 日頃あまり接することのない方々にお会いできることは、貴重な体験でした。【保護者】
- 22 みんなと一緒にまちを歩き、子どもたちからもたくさんの意見が出てよかった。私も勉強になりました。【障害者団体】
- 23 単にハード面の整備だけでは対応できない点が多くあり、難しいと感じました。【市関係課】
- 24 足をケガしていた人に合わせて、ゆっくり歩き、道路の穴や段差に杖が挟まり、つまずくなど、歩道橋や信号も丁寧に歩いて、じっくりと子ども達に体験し考えさせる。引率の先生のきめ細かい指導に感銘を受けました。【部会委員】
- 25 障害をお持ちの方と一緒に歩くことで、より身近な体験となり、児童にとってはとても分かりやすいのではないかと思います。【保護者】
- 26 今回、ご高齢の方と一緒に学校周辺を回らせていただきましたが、普段何気なく通っている道でも、ちょっとした段差がけっこうあり、お年寄りにはこういう段差でもつまずいて大ケガにつながることもあるのだと、勉強になりました。【保護者】
- 27 知的のまち歩きでの体験は、外では難しいので教室で詳しい話を聞き、外では車いすを押ししたり、目隠しをして歩くなど、視覚や聴覚などの体験の方が分かり易いのではないかと思います。子ども達の様子が見られて、こちらとしても有難い機会でした。【保護者】
- 28 普段歩き慣れたところで、新たに発見することもあり、とても有意義でした。また、実際に目の不自由な方と一緒に歩きながら話を聞いたので、注意する点などをその場で教えていただけたのは、とても分かり易かったです。
- 29 各グループとも、講師・コーディネーター・市の職員・保護者数名という十分なサポートのもと、体験学習を行っていたようで、学習の内容、安全面とも納得がいくものだったと思います。また、途中（2回程）メモを取る時間を十分にとっていただいたので、子ども達も慌てることなく記入できて良かったと思います。【保護者】
- 30 視覚障害者の方と街を歩く経験は初めてでしたので、知らない事ばかりでとても勉強になりました。私達が普段の生活で聞き流してしまう音も、道を歩く上で重要な意味を持つ事を知りました。【保護者】
- 31 児童にはとても良い経験になったと思います。【先生】
- 32 日頃、障害者の方々の立場にたって道を歩くことがなかったので、色々なことに気づくことができ、良い経験になりました。【保護者】

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- 1 「車の音や、自転車の音が聞こえないと、後ろから来たことがわからないから危ないね。」「カーブミラーがあると、車や自転車が見えるから便利だね。」【市関係課】
- 2 エレベーターの中で「とても分かり易くていいなと思った所があるけど分かりますか？」と聞いたら、「ひらく」「とじる」という返事が返ってきて、ちゃんと分かっているなど、嬉しくなりました。また、新都心駅付近の歩道の一部屋根について、「車いすの人はこういう所があると助かるんだよ」と声をかけたら、「あ！そうか。傘をさすの大変だね。」と気づいてくれました。【部会委員】
- 3 階段、エレベーター、エスカレーターについて質問を受けた。【部会委員】
- 4 聴覚障害者のある方が、音が聴こえないためにおきる不注意、事故防止で行っている指さし確認などの習慣を、耳が聞こえる自分たちでも心がけたいと答えたこと。【部会委員】
- 5 体験学習についてではなく、質問する際は手を挙げて、名前を述べ質問する習慣をつけてはどうでしょう。【部会委員】
- 6 「アイマスク中は不安になる。」この言葉を、子どもたちからいただいたのは、今回の成果として十分と考えます。【市関係課】

- 7 段差の違いでつまずいたりすること。【保護者】
- 8 アイマスクをして歩く姿に、いつもスイスイと歩いている所でも、不安に感じていたのを実感できて、良い体験になったと思います。【保護者】
- 9 言葉遣いも丁寧に対応してくれた。【ボランティア団体】
- 10 きちんと答えていて、良かったです。【障害者団体】
- 11 お子さんが一生懸命取り組んで下さいました。【ボランティア団体】
- 12 生徒さんも介助ヘルパーをして街を歩いて、電柱の出っ張り等、気づいたことが多いと思いました。【ボランティア団体】
- 13 「今、音が出ない車などが開発されていますが、それは、目の見えない人達には危険じゃないの？」と疑問に思った様です。私も、音が消えてしまっても危ないし、大きすぎる音も迷惑だなと、本当に考えさせられました。【保護者】
- 14 「普通の人なら、歩道にあるコブなど目で見て避けるが、視覚などに障害のある方だと避けるのが難しい。」【市関係課】
- 15 児童へ何が問題なのかと問いかけても、答えられない児童が多かったことが印象に残った。このような体験学習を通して、児童たちが自ら問題を考える良い機会になったと思う。【市関係課】
- 16 車のクラクションが大音量で鳴り、皆が驚いた時、子どもたちが「これも聴こえないの？」と質問し、講師が「何も聴こえないんだよ」と説明したところ、皆が「聴こえないっていうのは、こんな大きな音も聞こえないということなんだ」と納得したシーンが印象的でした。
- 17 まち歩き中、新都心でエレベーターに乗ったとき、「後ろの鏡は何のため」と質問したら、「車いすの人が降りるとき後ろが見えるように」との答えがありました。テレビのクイズ番組でタレントの人たちが身だしなみを整えるなどと正解がなかったので感心しました。【障害者団体】
- 18 祖母と一緒に住んでいる児童がおり、祖母がテニス中に手をケガしてしまい、リハビリ中であるため、心配であると言っていた。また、料理を一緒に作っていることなどの話を聞きながら、思いやりのある児童は家族関係も良好であると思えた。【部会委員】
- 19 耳の聞こえない人は、見ただけでは聞こえる人と同じで分からない。今日一緒に歩いて勉強になった。【障害者団体】
- 20 「信号で知的障害者の方が渡ろうか迷っていたら、今は渡れますよとか渡れませんよということを教えてあげたい」ということを話していたのが印象的でした。大人に対しても、こうした勉強する機会を設けるのも効果的なのではないかと思いました。【市関係課】
- 21 外見では、耳が聞こえない人と普通に聞こえている人の差がわからない。【保護者】
- 22 いつもはかけ上がる歩道橋を、足の悪い人に合わせてゆっくりいたわってくれる優しさを体験させていただきました。信号が青の点滅の時は「もう渡らない」と言ったときに、何故かと聞かれたので、「すぐ赤になるから次の青まで待つ」と答えました。その時、子ども達は待つことを体験し、「そうだね、守る。」と言ってくれました。「足の弱い高齢者には、手すりがあると助かる」と言ったら、「もっと増えるといい」と言っていました。また雨の時は、手すりが滑って危ないから、「今度拭いてあげよう」とも言っていました。嬉しい反応でした。【部会委員】
- 23 交差点の点字ブロックには、棒状の線のもの、丸い模様のものでありますが、子ども達が違いに気づき、質問をしていたので、知らなかった私も勉強になりました。【保護者】
- 24 一人ひとりとても真剣で、ふざけている児童がいない点が心に残りました。メモをきちんと取り、話もきちんと聞いていました。道が分からない人に説明するのがとても難しそうでした。【保護者】
- 25 歩道にある黄色い点字ブロックの上を、アイマスクをつけて歩いた子どもが、足で触っても違いがよく分からないようでした。足で感じることに慣れていないと思ったのですが、雨や風にさらされたところは、ブロック自体が磨り減っているようでした。定期的に補修などをすべきだと思ったのですが、実際にそのような工事を見たことがありません。一緒に歩いてみて、そのことに気づくことが出来ましたし、必要性を感じました。【保護者】
- 26 視覚障害者に子ども達が順番に肩をかしていたのですが、交替の際には自分の名前をしっかりと伝えていました。また、屋根がついている所よりも、屋根のない場所にある点字ブロックのほうが、磨り減っていて、足でブロックを確認するのが難しいと言っていた児童がいて、これこそが体験学習だと思いました。【保護者】

- 27 「以前、道路標識のポールに気づかずにぶつかってしまった。」という体験談を聞いた後は、標識や電柱などの障害物をよく気に止めていたと思います。アイマスクをしての点字ブロックの歩行体験で、まっすぐに歩く難しさを皆が話していました。【保護者】
- 28 案内板の前で演技をしました。案内の難しさを感じたようでした。【先生】
- 29 視覚障害者の方を子ども達がリードするとき、まっすぐの道は楽に進んでいましたが、段がある場所では緊張している様子が印象的でした。【保護者】

Ⅲ 【問】 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- 1 駅の構内を歩いて体験してもらいたい。他の市では、一駅電車に乗って体験させている所もあると聞いています。【障害者団体】
- 2 職員はどういう対応をすべきか、また、予めどの障害グループに属するか、予め概要的なものを教えていただけたら、もう少しお役に立つ対応が出来たように思います。建築職員は、ハードについて指導をしているものの、障害当事者の実態を知らないままなので、南北建設事務所の職員や営繕関係の職員についても、この様な機会を得られるとありがたいと思います。【市関係課】
- 3 知的の説明は、本当に幅が広い（障害の程度）ので、なかなか理解できない部分も多いかも知れません。例えば、学校の特学のお子さんのご協力を得るとか、困っている事のアンケートなどを取ってもらうのもいいのかなと思いました。【部会委員】
- 4 まち歩きの前に、生徒たちがあらかじめ疑問・質問を整理しておいてから、まち歩きの中で活かすようにすると良い。【部会委員】
- 5 車いすが子ども12名に対して2台。3～4台あると、もう少し体験が充実したかもしれません。【保護者】
- 6 今後、バリアフリーマップ等、子どもたちの教育の一環として作成していただき、市で修正を加え、その地区その地区で発行して行くのはどうでしょうか。このままで終わらせるのはもったいないと感じました。【市関係課】
- 7 歩くスピードをもう少し上げた方が良くと思いました。【保護者】
- 8 新都心はある程度バリアフリーになっているので、バリアフリーになっていない所で体験することも大切だと思います。【保護者】
- 9 実体験は何よりの体験ですね。【ボランティア団体】
- 10 もっと難しい所も歩きたかった。【障害者団体】
- 11 今までどおりで良いと思います。【障害者団体】
- 12 とても良い経験ができました。次年度も、子どもたちに体験させて頂ければ勉強になると思います。ありがとうございました。【保護者】
- 13 事務局側（市職員やコーディネーターの方など）で、事前に打合せができれば、より良いものになると思います。【市関係課】
- 14 歩くだけでなく、公共交通機関（電車など）を使つての体験もできると良いと思った。【障害者団体】
- 15 ハード面のまちづくりを考える際には、どうしても医学的な障害特性が問題になると思いますが、子どもたちに伝えたいことは少し違うのではないかと思います。私としては、関わってくれる人の生き生きとした生活や人生に触れ、生きるってこういうことなんだと心を動かされる機会を作ることが重要だと思っています。「〇〇の障害ってこうなんだよね」という障害の種別ごとの学習ではなく、生活のしづらさからのアプローチができるといいのではないのでしょうか。知的障害をコミュニケーションの面からとらえた「ピカチュウ」のくだりがヒントになると思います。
学校側にも様々な事情があることはわかりますが、急な日程設定や時間変更などで関係者の打合せもできず、事務局も大変だったと思います。時間的な余裕がないとできないことですが、授業プランも事務局だけでなく、委員会のメンバーと一緒に作れるといいと思います。また、まち歩きの際、コーディネーターと当事者の打合せの時間があるといいと思います。【市関係課】
- 16 小学生だけでなく中学生にも授業を取り入れてほしい。【障害者団体】
- 17 高齢者や障害者など、コースごとに分けなくて、総合的（混合）な取組で行ってもいいのではないかと。そのためには、ボランティア等の増員も必要となるが、災害時等の発生に、体験を通して児童も何らかの支援が出来るのでは

- ないでしょうか。【部会委員】
- 18 今回は 50 分のまち歩きでしたが、もっと子どもたちと話が出来ると思っていたが出来なかった。もう少し時間が長いとたくさん話しができたと思います。【障害者団体】
- 19 まち歩き後に、各グループで気づいた点などを発表しあう場にも参加したかったと思いました。【市関係課】
- 20 子ども達が真剣に聞いてくれて、一人ひとりの素直な心に、人が本来持っている思いやりや優しさを、今年は特に大切に見直される年だったと思います。まちづくりの基本を小学生からとの企画、大事な視点だと思います。【部会委員】
- 21 聴覚については、ヘッドホンなどの道具を使用せずに、児童が耳を塞いで歩く事でも十分にわかり、また、複数同時体験が出来てよいのではないかと思います。【保護者】
- 22 下落合小と与野東中の間の道路は、車が頻繁に通るのですが、歩道がなく、お年寄りや体の不自由な方はもちろん、子ども達にも危ないとおもいます。【保護者】
- 23 時間の都合で、アイマスクなどの体験をできる生徒が全員でなかったことが残念でした。【保護者】
- 24 回るルートなどの詳しい説明を、プリントなどでよいので先に配布していただくと良いと思います。皆さん、何をお手伝いしたらよいか不安なようでした。【保護者】
- 25 子どもが13人のグループだったのですが、もうすこし少ない人数のほうが、エレベーター移動の際もきつくないし、まとまりよく動けたのではないかと思います。【保護者】
- 26 肩をかしたり、白杖・アイマスク体験は、児童それぞれが体験後の感想を話し合っていたようです。ただ、もうすこし1グループの人数が少ないと白杖やアイマスク体験も全員ができるのではないかと思います。【保護者】
- 27 全部の班にコーディネーターがいると有難いです。【先生】
- 28 時間が短く難しいとは思いますが、子ども達ももっと講師の方と向き合って、いろいろな話ができれば良いと思いました。【保護者】

平成23年12月5日 学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

- I 【問】 本日の学習発表会は、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。
- 1 子ども達が一生懸命発表している姿に心を動かされました。【保護者】
- 2 1組の肢体のまとめがとても分かり易くまとめられていた。大人でも興味を示すことができた。調べて分かったこと、インタビューから、自分達の考えと、順を追ってまとめてあり良かったです。発表者が、中身をしっかりと頭にいれ、原稿を見ないで話しているのは好ましく思いました。聴覚のブースに手話通訳者の方がいたのは良かったと思いました。【保護者】
- 3 これから大人になる子ども達が、福祉に興味を持つ良い機会だと思いました。一人ひとりの意識だけで街は変わっていくと思いますが、自分たちが発表した内容のひとつでも、毎日きちんとした成果として伝わるよう、実際に改良された街の箇所が、行政から学校へフォローアップされると良いと思います。【保護者】
- 4 学習のために子ども達も勉強したので、今後、不自由な方や高齢者の方へ手を差し伸べられる人間になってもらいたいです。【保護者】
- 5 丁寧に調べ、大変上手に発表できていたと思います。クイズや発表の後の質疑応答等を見て、生徒一人ひとりがとても良く理解していると感じました。【保護者】
- 6 子ども達ならではの小さな事への気づきに感心させられました。【ボランティア団体】
- 7 生徒さん達が良く勉強していると思います。新都心での擬似体験から学んだと思われるところも見受けられ、ボランティア活動を有意義に活かしてもらい、嬉しく思いました。【ボランティア団体】
- 8 良くまとめてあったと思いました。【障害者団体】
- 9 短時間での生徒さんとの触れ合いのなかで、よくここまで調べ上げた后感心しました。生徒さんが視覚障害者をよ

く理解した様子なので感動しました。【ボランティア団体】

- 10 良く内容をまとめてあると思いました。ちゃんとメッセージが伝わっていて良かったと思いました。【障害者団体】
- 11 大人の目線とは違う、小学4年生の子ども達を目線で考え、学習したことを発表していたので、とても良い機会を与えていただいたと思いました。今後にも活かしてほしいです。【保護者】
- 12 障害者の方に限らず、困っている人がいたら助け合うということは大切です。【保護者】
- 13 良く調べてありました。大人でも難しい知的障害者の混合障害についても図や絵を利用してあり良かった。視覚のブースでの話は、実際に当事者は来校していたので、もっと大きな声で発表をすれば、もっと良いと思いました。同じように、聴覚のブースでも、手話通訳のスピードを見ながら話せば良かったと思います。【ボランティア団体】
- 14 事業団の方や、実際に障害を持つ子の親の方などから意見を直接聴く機会が少ないので、貴重な体験でした。【市関係課】
- 15 「危険な場面」「マンション入口まで行くのに段差」「道路を渡る際、雨の日は危険」「少しの坂でも危険」等の発見、また、バリアフリー化などの専門用語も学んでいることが分かった。【部会委員】
- 16 どの障害をテーマにしたかに係わらず、ソフト面・ハード面双方に留意しなければならない点がよくまとめられていたと感じました。印象に残っているものとして、共通して放置車輛（自動車・自転車）について挙げられていたこと。視覚については、階段の段差は高すぎても低すぎてもいけない、踏幅は一定でなければならない。聴覚については、サインの高さが見やすい位置であることが必要であることについて、再認識させられました。基本的には、福まち条例に規定する事項を遵守すれば、ハード面については支障なく利用できるものと再認識をしました。【市関係課】
- 17 「自分達で学んだこと」「インタビューを通して学んだこと」「まち歩きから学んだこと」から、それぞれ自分達なりの考察ができていた。特に、「意識」を変えることで、自分達の行動を変えたり、今自分達でもできる「住みよいまちづくり」に活かせることに言及している点は、学習の大きな成果と考えられます。関連して、挨拶や声かけなどのコミュニケーションをとることなど、誰にでもできそうなことが、「変えるきっかけになる」という「気づき」も評価したい。【市関係課】
- 18 各クラスが班を作った発表ということで、先ず発表数の多いことに驚くとともに、内容について濃い中身に感心をした。視聴覚のあるグループでは初めて点字を考察した「ルイ・ブライユ」を取り上げ、ある班ではポイ捨てのゴミが障害者にとって道を歩く支障になっているという観察に感銘した。また、ある班では「オシャレのために（都市景観的観点か？）道を段差にしてしまった。」という鋭い指摘があった。大人にとっても大変勉強になりました。【ボランティア団体】
- 19 まち歩きで出た問題を細かくまとめ、重要な所は色分けするなど、ユニバーサルデザインの原則や50年後の円グラフ、また、まとめに終わらずに「みんなに訴えること、やってほしいこと」として、〈高齢者では耳が遠いので、はっきり、ゆっくり、大声で〉、〈足腰が弱いので、重い荷物を持ってあげる、元気な声かけを〉等、実行に移していこうとする発表は嬉しかった。3回のかかわりだったが、校長先生もおっしゃったように、子ども達の成長が見えたと思う。温かい元気を、次世代への期待を貰った、嬉しい触れ合いでした。【部会委員】

II 【問】 本日の学習発表会及びこれまでの下落合小学校での一連のモデル地区推進事業（体験学習・まち歩き学習）に参加され、お気づきの点や次年度への問題・課題、改善した方が良くと思われたことがありましたら、お聞かせください。

- 1 もっと長くやってほしい。【保護者】
- 2 各ブースを均等に点在させ、分かり易く見やすい配置でしたが、各自大声を出している訳ではなかったのですが、肉声が耳障りで、発表の声よりも掲示物に目を向けることの方が多くなりました。招待者の椅子が各ブースに2脚ずつは少ないと思いました。移動がOKと言われても、なかなか動かすことは難しいのではないのでしょうか。【保護者】
- 3 福祉のまちづくりは、ベビーカーを利用する子育てをされている方への配慮と共通点があります。市や区の施設

- (区役所・図書館・児童館・プール・体育館・公民館等)の周辺は、スクールゾーンのように、歩行者保護を重視して歩道の整備や車の規制など、特別区とした取組をしてはどうかと思います。パブリックゾーンという名称で道路の色を変えるなどの、皆の意識が変わりやすい取組を期待しております。【保護者】
- 4 健常者が気づかないような、街中の歩道の段差が多い。【保護者】
 - 5 道路を築造する方と、子ども達と一緒に街に出て話をすると良いと思います。【保護者】
 - 6 多くの小学生が、この学習を受けられるようになるとういと思います。
 - 7 教育委員会、教育センターなどの教育関係箇所が連携しても良いのではないかと感じました。【ボランティア団体】
 - 8 発表が体育館という広い場所なので、折角の発表もよく聞き取れなかった。教室でやってもらいたかった。【障害者団体】
 - 9 移動に時間がかかってしまい、発表の時間を多くとった方が良かった。【障害者団体】
 - 10 一緒にまちを回るのもいい経験だと思ったのですが、終わった後でゆっくりお話をさせていただく時間があると、もっとたくさんの事を教えていただけたのではないかと思います。【保護者】
 - 11 この交流を活かして、周囲の方と付き合ったい。4年生、5年生・・・と、共に街を見守っていくことも、人間としての形成や異世代間交流ができて“生き抜く力”も向上すると思います。数ヶ月から数年になることで、より一層街づくりに多くの方が関わられると思います。とても良い機会に恵まれて良かったです。【ボランティア団体】
 - 12 参加者の気づきの内容をまとめたものを、参加者にフィードバックすることはもとより、施設整備及び管理に携わる職員、皆に周知できると良いと感じます。参加者や子ども達が、自ら気がついた点を箇条書きにする程度なら、たいした負担にはならないと思うので・・・また、子ども達が大変な労力をかけてまとめあげた内容は、1つの学校の中に留めておくだけでなく、HPで公表するなど良いと思います。【市関係課】
 - 13 「モデル地区＝小学校と連携した取り組み」という方向で来年度も展開するのであれば、出来れば今年度中から学校へのアクセスをし、十分な説明と来年度のカリキュラム作りを共有できる作業が出来るとよいかと思います。今年度は、4年生をターゲットとした取り組みであったが、「バリアフリー」自体を理解できることや自分たちが「まちづくり」を担えるという意識を持てる世代であり、今後の目安にもなったと考える。
また、「モデル地区＝小学校」という枠組みでよいのかという議論も、深めても良いと思います。【市関係課】
 - 14 多くの発表は、皆力作であり、全部を見・あるいは児童の発表を聞きたかった。限られた時間の中で、3回の発表機会が終わることは大変もったいないと思う。
新都心での疑似体験・バリアフリー見学が、このような学習成果として実現できたことに、末端の参加者として感謝申し上げます。【ボランティア団体】
 - 15 時間が少なかったこともあり、全部のグループの発表を見る事が出来なく残念であった。児童の父母が見学に来ていたので、体験を通しての発表の意見交換があったら良かったと思った。
児童を通しての福祉のまちづくりモデル地区推進事業の充実に対し、さいたま市で一番障害者等が居住していて、生活しにくい場所を通してのユニバーサルデザインを考え、児童がまちづくりに取り組んでいくかを考えてもいいのではと思いました。
下落合小学校での取り組みは、子どもの頃から高齢者、障害者(児)との体験教育は思いやりのあるまちづくりの一環となったと思う。【部会委員】
 - 16 学校の教育方針や先生方の熱意、また周辺環境も学びました。学校周辺のグリーンベルト、私の地区の小中学校との違いも勉強になり、高層ビルに住む多くの児童との会話で、地震の揺れ方や避難の話も聞けました。子ども達が福祉のまちづくりに大きな関心を示してくれたこと、一生懸命なこと、今回、子ども達が学ぶことを通して大人が気づくこと、学ぶことがたくさんあること、今後活かしたいと思います。PTAの方との会話も良かったです。【部会委員】

平成23年11月15日 まち歩き学習時 三浦モデル地区推進部会長あいさつ

本日は、下落合小学校の皆さん、諸団体の皆さん、市役所の皆さん、そしてご父兄の皆さん、お集まりいただきましてありがとうございました。

私は、本日聴覚障害者の方のグループと一緒にまち歩きをしました。今、生徒から感想の発表があったように、「普段は何気なくしていることにも、困ることがあるのだな」とか、今まで学習してきたことに基づいて、「やっぱりそのとおりか、こんな新しいこともあるんだ」という発見があったり、逆に、「大きな障害があっても工夫をしていて、自分たちとは違った視点で生活をしているんだ」、という点に気が付くことができたと思います。

参加して下さった父兄の皆さんも、自分たちの子どもたちが福祉について勉強している姿勢を見たり、いろいろな事情をお持ちの方とふれあうというのは、なかなか経験できないと思います。

皆さんも、今日家に帰って、ぜひ家族のみんなに、「今日こんなことを勉強したよ」とか、「今日こんなことを感じたよ」というのを伝えてください。

学校の先生方も、本日の学習を活かしてさらに学習を深めるようにしていただきたいと思います。

本日は、ありがとうございました。

発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961